

# ゆとり

## (理念)

地域の基幹病院として、患者様に信頼され、  
愛され、満足される、質の高い医療を目指します。

## (基本方針)

1. 高度医療の充実
1. 高齢化社会への対応
1. 予防医学の充実

を目指した、「手作りの医療」を心がけています。

## \*\* Contents \*\*

- ◆TOPICS1: 「インフルエンザ」に注意しましょう!!
- ◆TOPICS2: 「インフルエンザ」の治療法・合併症について
- ◆TOPICS3: 「インフルエンザワクチン」について

## ～お知らせ～

- ・平成25年10月より、「外来担当表」が一部変更になりました。

(内科・泌尿器科・整形外科・産婦人科外来)

詳しい診療状況につきましては各外来スタッフまでお問い合わせください。



## 1. 「インフルエンザ」に注意しましょう!!

### ■インフルエンザとは…

普通の風邪とは異なり、突然の**38℃以上の高熱**や、**関節痛、筋肉痛、頭痛**など、**全身倦怠感、食欲不振**などの全身症状が強く現れるのが特徴です。

#### ～経過～

インフルエンザウイルスに感染した場合、約1～3日の潜伏期間後、発症します。

高熱や全身倦怠感、食欲不振の全身症状が強く現れて、やや遅れて、咳や喉の痛み、鼻水等の呼吸器症状が現れ、吐き気等の消化器症状を訴えることもあります。

通常は、10日前後で症状が落ち着き、治癒します。

#### ～一般的な風邪との違い～

一般的な風邪は年間を通してみられますが、インフルエンザウイルスは季節性を示し、日本では例年11～12月頃に流行が始まり、3月にピークを迎えます。

### ■インフルエンザの予防方法

毎年、流行シーズンの前に、インフルエンザワクチンを接種しておきましょう！

当院でも、ワクチン接種を開始しています。

ワクチン接種以外にも、外出後の**手洗い・うがい**は予防の基本です！

空気が乾燥するとどの粘膜の防御機能が低下するため、湿度を50～60%に保つことも効果的で、体の抵抗力を高めるために十分な休養とバランスのとれた栄養摂取をこころがけましょう。

流行シーズン中は人混みや繁華街への外出をさげ、外出時のマスク着用も忘れずにしましょう。



### ■もしインフルエンザにかかったら

インフルエンザにかかったら早めに医療機関を受診しましょう。

安静にして体を休めるとともに、他の人にうつさないにすることも大切です。

自分の体を守り、他の人にうつさないためにも下記の「**生活ポイント**」を守りましょう。



### 生活ポイント

- ・安静にして休養をとる。特にに睡眠を十分にとる。
- ・お茶やジュース、自分の好むもので構わないので水分補給を忘れずに。
- ・人ごみや繁華街への外出を控え、無理して学校や職場等に行かない。

## 2. インフルエンザの治療法

### ■ 一般療法（生活療法）

- 安静にして睡眠や休息を十分にとる。
- 脱水症状が起こりやすいため、水分補給を十分にとる。

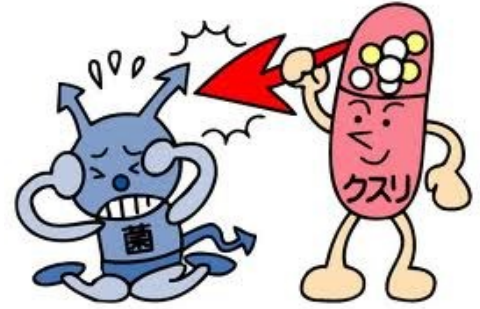
### ■ 薬物療法

#### 「原因療法」

- 抗インフルエンザ薬

#### 「対症療法」

- 解熱鎮痛薬（高熱に対して）
- 抗菌薬（細菌による二次感染に対して）



インフルエンザウイルスは増殖のスピードが速いため、症状が出現して48時間以内にウイルスの増殖のピークがきます。そのため48時間以内に服用しないと薬の効果が現れにくくなります。

ウイルスの増殖を抑えて感染の拡大を防ぐ薬のため、**発症後できるだけ早く服用を開始することが重要です。**

## 3. インフルエンザの合併症

重症化すると、**小児では「インフルエンザ脳症」、高齢者では「二次性細菌性肺炎」**等の合併症を発症する可能性があるため注意が必要です。

### ■ インフルエンザ脳症

インフルエンザによる発熱中に意識障害、痙攣、嘔吐、頭痛、異常行動・言動等が現れ、最悪の場合は脳障害の進行や多臓器不全をもたらし、命に関わる重い病気です。

※ 5歳以下、特に1～2歳に集中しており、1年間におよそ100～300人の小児が発症しています。

### ■ 二次性細菌性肺炎

インフルエンザに感染したのち、抵抗力の低下などによって発症する細菌性の肺炎のことです。生理機能の低下した高齢者に多くみられます。

細菌感染による二次性細菌性肺炎が心配される場合には、早めに抗菌薬による治療を開始することが重要です。

## TOPICS 3



# 4. インフルエンザワクチンについて

### ■効果について

インフルエンザワクチンの接種を行うことで、インフルエンザによる重篤な合併症や死亡を予防し、健康被害が最小限にとどめることが期待できます。65歳以下の健常成人での発症予防効果は70～90%、自宅で生活している高齢者の場合には、60歳以上で発症予防効果は58%、70歳以上ではさらに低下するであろうと報告されています。施設内で生活されている高齢者での発症予防効果は20～40%と下がりますが、**インフルエンザに関連する死亡の予防効果は80%**みられたと報告されています。

### ■接種時期について

例年インフルエンザは12月～3月に流行します。ワクチンの予防効果はワクチン接種2週間後から5ヶ月程度と考えられています。そのため早ければ10月から、遅くとも**12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましい**と考えられます。

### ■接種回数について

13歳未満の方はインフルエンザワクチンを2回接種することが推奨されています。また1回目より4週間程度間隔を空けることが望ましいとされています。

# 5. 当院で接種を希望される方へ

10月1日より、  
**インフルエンザワクチン接種**  
が始まりました。

接種を希望される場合、**予約は不要**です

価格

一般

3,600円

1歳～学生

2,500円

※税込み

助成金のご案内

	銚子市在住の方	神栖市在住の方
対象者	65歳以上 または60～64歳の身障1級の方	65歳以上、または60～64歳の身障1級の方 1歳～小学校6年生
助成金額	1,000円	後日申請により、 <b>半額</b> を市から助成
実施期間	平成25年10月1日～平成25年12月31日	平成25年10月1日～平成26年1月15日